

都市再生整備計画(第2回変更)

おおともしいせきれきしこうえんしゅうへんちく
大友氏遺跡歴史公園周辺地区(2期)

大分県 大分市

令和 6年 2月

活用する交付金	確認
都市構造再編集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	大分県	市町村名	大分市	地区名	大友氏遺跡歴史公園周辺地区	面積	212.5 ha
計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度	交付期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度				

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ■大目標 歴史と文化を活かした魅力ある新しい大分の発展に向けたまちづくり □目標① 大友氏遺跡を核とした歴史・文化施設の基盤整備を進める □目標② 国指定史跡大友氏遺跡の歴史文化資源を活かしたにぎわいと人の交流をうむ拠点を形成する □目標③ 地域資源を活かす人材の育成を行い、歴史文化情報発信を行うほか、歴史文化資源の顕在化により幅広い層に認知度を向上を図る

<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針)を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p> <p>本市では、平成30年度に策定した「大分市立地適正化計画」において「元気・安心・快適な暮らしを支える将来にわたって持続可能な『多極ネットワーク型集約都市』の形成」を都市づくりの基本理念として掲げ、将来における市域全体の暮らしやすさや活力の維持・増進につながり、だれもが将来にわたり身近な場所で安心して快適に暮らし続けることの出来る居住環境づくりを支えることとしている。</p> <p>JR大分駅を中心とした中心市街地およびその周辺部においては、「都心部の魅力の創出や都市機能の集積・強化」を図り、県都および東九州の中核として重要な拠点となる「大分都心拠点」の形成を図る。また、旧市町の中心部など歴史的に地区の中心的役割を担ってきた各「地区拠点」においては、地区の特性を生かしたまちづくりの推進による「地域の活力の維持・増進」を図る。さらに、拠点間を相互につなぎ、交流・連携の骨格となる「交通体系」の形成・強化を進める。</p> <p>基本理念の実現に向けた施策として、公的不動産の有効活用を掲げ、公共施設の複合化・多機能化・統合等を進めるとともに、廃止となった誘導区域内の公共施設跡地については、公共や民間による誘導施設整備の事業用地として有効活用を進めることとしている。さらに大分駅周辺の公有地においては、鉄道、路線バス、タクシーなどの公共交通の円滑な乗り継ぎ環境の形成に向けたバスターミナルの整備や民間施設との複合化について検討している。</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>・大分市は、奈良時代に国府がおかれて以来、1300年続く県都であるという歴史的特色があり、古代～中世～近世に至るまで、政治や文化の中心地は、上野台地を起点に反時計回りに移動している点を特徴とする。中でも戦国時代の大分を治めた大友氏の館が所在する大友氏遺跡を中心としたその周辺は、歴史的な資源にめぐまれた場所であり、現代のまちの中に様々な時代の遺跡が重なり合っており、当時の土地利用の痕跡も良好に遺されている。その後、江戸時代に府内城の築城と城下町の形成を経て、現在の大分市街地の文化的都市基盤の礎となった場所であると位置付けられている。</p> <p>・平成8年にはじまる市内中心部における大友氏関連遺跡の発掘調査・研究の結果、大友氏遺跡の価値が次第に明らかになり、戦国時代の豊後府内や大友宗麟の人物像に対する市民の関心も高まりつつある。大友氏遺跡のあり方については、魅力ある地域づくりや観光活用を視野に入れるなど、本市の各種計画においても重視されている。平成14年度に「大友遺跡検討委員会」を設置し、大友氏館跡の保存整備や遺跡を活用したまちづくりに関して総合的な検討をはじめ、平成16年の「大友氏遺跡を活かしたまちづくり検討委員会」では、大友氏遺跡の保存・整備・活用について具体的且つ実効的な検討を行った。同年度に策定された「大分市都市計画マスタープラン」では、大友氏遺跡一帯を「歴史文化観光拠点」と位置付けている。</p> <p>・平成18年3月に大友氏遺跡は地域の歴史と文化を知り、魅力的で個性あふれる県都大分市の「顔」に欠かせない資産であるという認識のもと「大友氏館跡歴史公園」として都市計画公園決定を行い、平成20年度には大友氏遺跡の本格的整備を実施するまでの公開活用を行う施設として「大友氏遺跡体験学習館」を開館し、戦国時代において世界的にも知られた国際貿易都市「豊後府内」について紹介している。</p> <p>・平成25年3月には、市制100年を機に、大友宗麟をテーマに大分市の歴史や魅力を情報発信する「大友宗麟プロモーション」事業を展開しているほか、平成25年8月には、市制100年を期に開催された「南蛮文化国際フォーラム」において、郷土の戦国大名・大友宗麟公の功績と我が国でいち早く南蛮文化が花開いた豊後府内を誇りとし、魅力に満ちたふるさと大分を創造する決意を「南蛮文化発祥都市宣言」として提示され、大分市の新たな魅力として発信するに至っている。</p> <p>・平成26年3月に策定した史跡大友氏遺跡保存管理計画においても整備基本構想の項目があり、歴史公園としての実現に向けた長期的な指針を定め、平成27年12月には、具体的な整備の内容を示した「史跡大友氏遺跡整備基本計画(第1期)」を策定し、大友氏遺跡歴史公園整備に向け、大友氏館跡庭園部の整備に着手した。そのような中、令和元年10月にはラグビーワールドカップが大分市で開催され、国内外から多くの来街者が大友氏遺跡歴史公園における文化財の発掘状況や庭園部の整備状況を知る機会となった。</p> <p>・令和2年3月に「史跡大友氏遺跡整備基本計画(第1期)(令和元年度改定版)」を策定し、2030年をめどに大友氏館跡の整備を完了させる方向を示した。また、令和2年6月より、大友氏館跡庭園の一般公開を開始し、大友氏遺跡を代表する大友氏館跡の大きな魅力として周知されつつある。</p> <p>・これまでの都市再生整備計画を進める中で、各拠点における回遊性向上のため、快適な歩行空間や案内サインの整備、市民の交流の場となる広場などを整備し、歴史・文化や地域資源を活かした街づくりにおいて、一定の成果をえている。今後も整備した場が更に周知され、利活用されるための魅力発信や、大友氏遺跡の魅力を高める整備を含めた継続的な事業を行い、大友氏遺跡歴史公園周辺地区の活性化を図る必要がある。</p>
--

<p>課題</p> <p>①(だれもが訪れやすい大友氏館跡の雰囲気づくりと周辺歴史遺産の顕在化)</p> <p>大友氏館跡の本格的な公園整備に先立って、だれもが訪れやすい、歴史公園の基礎となる広場整備を優先的に行いながら、整備状況や発掘調査の様子を積極的に公開し、大友氏遺跡歴史公園の整備に対する市民の期待度を高めていく必要がある。あわせて大友氏館跡を基点とした、周辺の歴史遺産の顕在化を行いながら、エリア全体の魅力と回遊性を高める整備が必要である。</p> <p>②(歴史文化資源のさらなる活用)</p> <p>大友氏に関する認知度が一定程度高まったものの、現在進捗している大友氏館跡の史跡整備に関する認知度や期待度の醸成は十分とは言えない。また、イベント等の参加者が一部の歴史愛好家などに偏る傾向があり、大友氏や大友氏遺跡についての魅力を幅広く伝える方策が必要である。</p> <p>③(歴史文化資源を活かしたまちづくり)</p> <p>歴史・文化観光の拠点となる施設の整備が整っていないため、歴史・文化を活かした個性と魅力あるまちづくりができていない。</p>
--

<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>「史跡大友氏遺跡整備基本計画」(令和元年度改訂版)に基づき、大友氏遺跡歴史公園を整備活用の基本目標「南蛮文化発祥都市おいたの創造・体感・発信拠点」として具現化し、歴史文化観光拠点として歴史公園や歴史文化観光拠点施設等の整備を行う。また、豊富な歴史・文化資源を地域住民や各種の市民団体と協働して発信していくことで、市民の誇りや市民全体での歴史・文化資源を活かしたまちづくり意識を醸成する。</p> <p>県都大分ならではの古代から近世までの重層的な歴史空間が体感できる歴史・文化の薫りがただよう、個性と魅力あふれるまちづくりの実現をめざす。</p>
--

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

大規模商業施設(店舗面積1,000㎡超)や行政機関など対象圏域が各地区全体となるような施設については、「都心拠点」と「地区拠点」の両方に誘導することが望ましい施設として設定している。
また、広域的に利用され、文化の醸成やにぎわい創出に寄与する文化会館・ホール、博物館など高次な都市機能については、「都心拠点」に誘導することが望ましいとしている。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

本市では、都市機能誘導に係る施策の方向性の一つとして「都心拠点及び地区拠点の活性化」を掲げており、各拠点における回遊性・滞留性向上のため、快適な歩行空間や案内サインの整備、市民の交流の場となる広場や公園・緑地などの整備を推進するとともに、歴史・文化や地域資源を生かした街づくりに向け、地区の特性に応じたまちなみ再生や住環境整備を推進することとしている。

本事業地区は「都心拠点」に該当しているが、歴史文化資源の顕在化、歴史・文化遺産を巡る観光ルート整備に課題を抱えている。
そのため、本事業地区では、歴史文化資源の顕在化のため、大友氏館跡庭園の整備を行ったが、さらに事業効果を高めるため、歴史文化資源の魅力を高める周辺施設の整備が必要である。

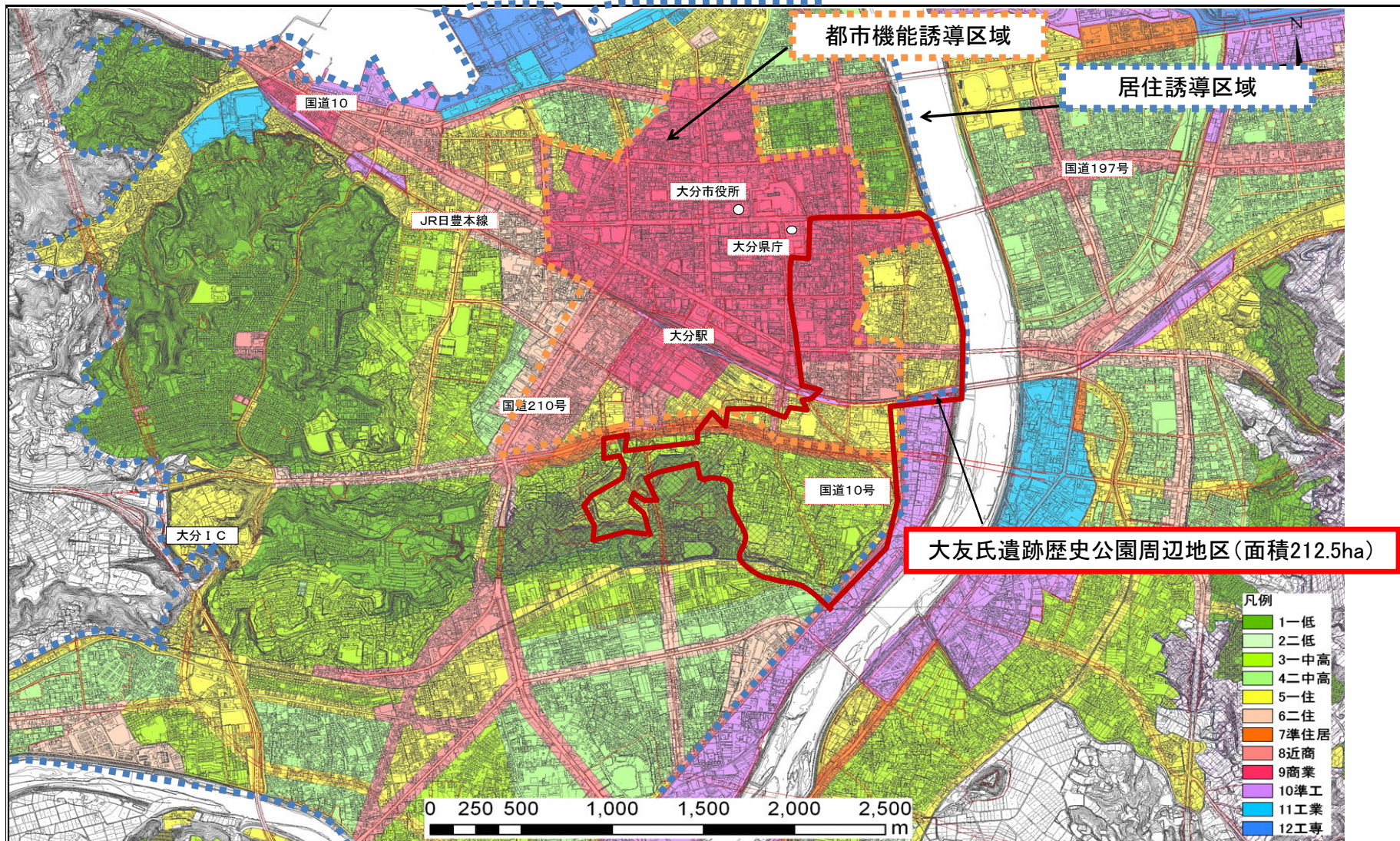
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
大友氏遺跡への来場者数	人/年	大友氏遺跡内に所在する大友氏遺跡関連施設への来館者数や、関連イベントへの参加人数、大友氏遺跡全体を訪れる観光客・来訪者の人数	目標①・②の指標として用いる。大友氏遺跡歴史公園内に歴史・文化情報を発信する広場を整備するとともに、公園に寄り付きやすく利便性を高め、大友氏遺跡への来場者数を増やす。現在、南蛮BVNGO交流館・大友氏遺跡内に年間18,820の方が来訪していることから、計画最終年度には24,000人に増やすことを目標とする。	18,820人	令和元年度	24,000人	令和7年度
大友氏遺跡の整備に対する期待度の向上	%	全市民から無作為に抽出した2,000人を対象としたアンケートによる大友氏遺跡の整備に対する期待度	目標②③の指標として用いる。これまでの取り組みで大友氏に関する認知度が一定程度高まったことから、今後、大友氏遺跡歴史公園の整備に向けた取り組みの期待を高めることで、大分市中心部における地域活性化の核となり、歴史文化資源を活かしたまちづくりを推進する。 平成27年度に実施した全市民から無作為に抽出した2,000人を対象としたアンケートにおいて「大友氏遺跡を整備し、大分市のあらたなシンボルとすること」に対し、「期待する」が38.1%であったことから、大友氏遺跡歴史公園に対する期待度を50%まで高めることを目標とする。	38.1%	平成27年度	50%	令和7年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(目標1 大友氏遺跡を核とした歴史・文化施設の基盤整備を進める)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史・文化遺産を巡る史跡案内ルート整備と歴史・文化資源の顕在化を行う ○歴史公園として活用するための基盤整備づくりを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ■大友氏遺跡歴史公園基盤整備 ■大友氏遺跡周辺史跡案内サイン整備
<p>整備方針2(目標2 歴史文化資源を活かしたにぎわいと人の交流をうむ拠点の形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史文化観光拠点となる仕掛けづくりとイベントによる賑わい促進 	<ul style="list-style-type: none"> ■大友氏遺跡周辺史跡案内サイン整備 □大友氏遺跡国史跡指定20周年記念イベント □大友氏遺跡歴史体験事業
<p>整備方針3(目標3 地域資源を活かす人材の育成や歴史文化資源の顕在化による歴史文化情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民から人材を募り歴史文化を発信できる人材を育成する ○歴史文化資源情報の顕在化を行い周知を図る ○歴史体験イベントを通じて事業地の歴史性の魅力向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ■大友氏遺跡周辺史跡案内サイン整備 □大友氏遺跡歴史体験事業 □歴史文化まちの魅力向上事業 □地域資源活用人材育成事業
<p>その他</p> <p>【まちづくりの住民参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各自治会によるごみ拾い、清掃活動を通じて周遊観光ルート及び周辺の美化活動が行われている。 ○JR九州ウォーキングとして、大友氏遺跡や大友氏ゆかりの史跡等を歩くイベントがJR九州大分駅と連携して実施されている。 ○市民団体と連携して、大友氏遺跡をテーマとしたシンポジウムの開催や、史跡巡り、芸術文化に関連した祭りが実施するなど、地域住民参加のまちづくりを行っている。 ○大分中央地域の代表者等で構成される「大分中央地域まちづくりビジョン会議」において「大分中央地域まちづくりビジョン」を策定しており、大友氏遺跡とその他の史跡を結ぶ地域全体の回遊性の向上、住民同士の交流を深めるコミュニティの深化、地域の防災組織体制を強化し、避難場所の整備など安全・安心なまちづくりなどの提言がなされた。当地区における都市再生整備計画は、この提言をもとに作成している。 <p>【立地適正化計画の方針との関連】</p> <p>大分市立地適正化計画では、「元気・安心・快適な暮らしを支える将来にわたって持続可能な『多極ネットワーク型集約都市』の形成」を都市づくりの基本理念とし、これを踏まえた都市づくりの基本方針を定めている。本地区の示す大目標である「歴史と文化を活かした魅力ある新しい大分の発展にむけたまちづくり」と特に方針が一致しているものは方針1の「県都にふさわしい風格とにぎわいのある大分都心拠点づくり」であり、本事業を通じて、歴史・文化、観光等のあらゆる都市機能が集積する都心拠点の魅力を高め、これらの都市機能のさらなる集積・強化やまちなかの回遊性向上を図っていく。</p> <p>関連事業については下段に表記している。</p> <p>方針1：県都にふさわしい風格とにぎわいのある大分都心拠点づくり (関連事業)大友氏遺跡歴史公園基盤整備、大友氏遺跡周辺史跡案内サイン整備、大友氏遺跡歴史体験事業、大友氏遺跡国史跡指定20周年記念イベント、歴史文化まちの魅力向上事業</p>	

大友氏遺跡歴史公園周辺地区(大分県大分市)	面積 212.5 ha	区域 長浜町1~3丁目、錦町1~3丁目、金池町3~5丁目、大手町の一部、顕徳町1~3丁目、六坊北町、六坊南町、元町の一部、上野丘東、上野町、上野丘西、上野丘1~2丁目、金池南2丁目の一部、桜ヶ丘の一部、三芳の一部
-----------------------	----------------	---



目標	大目標 歴史と文化を活かした魅力ある新しい大分の発展に向けたまちづくり 目標① 大友氏遺跡を核とした歴史・文化施設の基盤整備を進める 目標② 国指定史跡大友氏遺跡などの歴史文化資源を活かしたにぎわいと人の交流をうむ拠点を形成する 目標③ 地域資源を活かす人材の育成を行い、歴史文化情報発信を行うほか、歴史文化資源の顕在化により幅広い層に認知度向上を図る	代表的な指標	大友氏遺跡への来場者数 (人)	18,820人	(R1年度)	→	24,000人	(R7年度)
	大友氏遺跡の整備に対する期待度の向上 (%)		38.10%	(H27年度)	→	50%	(R7年度)	

凡例

- 基幹事業
- 提案事業
- エリア境界
- 関連事業
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域
- 中世大友府内町跡



○関連事業
大友氏遺跡保存整備事業
【大友氏館跡庭園整備】

□提案事業
地域創造支援事業
大友氏遺跡国史跡指定20周年記念イベント

□提案事業
地域創造支援事業
大友氏遺跡歴史体験事業

□提案事業
地域創造支援事業
歴史文化まちの魅力向上事業

□提案事業
地域創造支援事業
【地域資源活用人材育成事業】

□提案事業
事業活用調査
【事業効果分析調査】

■基幹事業
地域生活基盤施設
【大友氏遺跡周辺史跡案内サイン整備】

■基幹事業
地域生活基盤施設
【大友氏遺跡歴史公園基盤整備】